《様式１》

【対象事業活動の実績に関する評価】

令和3年度　事業経営評価

団体名	大阪シティバス（株）	所管所属名	都市交通局

中期目標

⑴ 当該外郭団体の事業経営を通じて達成しようとする本市の行政目的又は施策の具体的な内容

市営バス事業を民営化し当該法人に事業を一括譲渡するに際して、本市が策定した「バス事業引継ぎ（民営化）プラン」の内容を着実に実現すること。

⑵ 中期目標期間

令和２年５月１日から令和８年３月31日までの６年間

⑶ 中期目標の期間終了時において、⑴の行政目的又は施策によって実現しようとしている状態

民営化プランに記載のとおり、乗合バス事業の路線・サービスを持続的・安定的に提供している状態。

当該事業年度の評価

外郭団体の自己評価

当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた団体の総合的な評価

市営バス事業の引継ぎ後４年目の事業年度は、昨年度より引き続く新型コロナウイルス感染症の影響を受け、乗車人員がいまだ回復していない状況にある中、人件費の削減、業務執行の効率化など経営のスリム化に取り組み、一般路線バス86系統の路線、運行回数、運賃の水準を維持することができた。

最終目標達成見込み	最終目標達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について
ア ア：順調 イ：遅れあり ウ：計画の見直し必要	今後の乗車人員の回復が不透明な状況にある中、民営化プランに記載のとおり、乗合バス事業の路線・サービスを持続的・安定的に提供するため、引き続き経営の健全化に取り組み、2025年度までの一般路線バス86系統による路線、運行回数、運賃の水準維持に努めてまいりたい。

市の評価

当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた本市の総合的な評価

新型コロナウイルス感染症の影響により、非常に厳しい事業環境が継続しているが、民営化プランやグループ中期経営計画の内容に即して、一般路線バスについて、86系統による路線・運行回数・運賃のサービス水準を維持し、市内交通を支える事業者としての役割を果たしている。

助言等及び講ずるよう求める措置の内容【大阪市外郭団体等への関与及び監理に関する条例第７条第５項】（※必要な場合のみ）

中期目標に示された内容及び目標を達成する具体的な道筋・工程を確認する観点から、中期計画の策定に際し、バス事業における年度別の具体的な指標、目標値を設定するところであるが、現下の状況から指標等を設定できていないことはやむを得ないものと認識している。中期計画の策定について、今後、令和４年５月中に予定するOsaka Metroグループ中期経営計画改訂に合わせ、適時適切な策定を進められたい。

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組－１　（※分野ごとの評価）

中期計画

団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容
市民への良好な生活環境や活発な都市活動を支える交通基盤の確立に寄与するため、採算性の確保が困難なバス路線も含めた市内交通ネットワークの維持・充実に向けて取り組むこと。 さらに、サービス水準の維持に加えて、利用者ニーズのある系統の増回、その他様々な運行サービスの導入・検討など、その充実にも取り組むこと 。【中期計画を策定していないため、中期目標の内容を転記】

年度計画達成状況

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容	【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容
一括して譲り受けた一般路線バス86系統による路線、運行回数、運賃の水準を維持（水準とは利用実態その他を総合的に考慮したもの） ・接客・接遇サービスの向上を図るため、全バス運転士のサービス介助士資格を推進 ⇒2021年度採用者を除いた運転士の取得率100% ・利便性向上を図るため、スマートフォン端末でバス接近情報を確認できるＱＲコードを停留所に設置 ⇒全停留所990か所に設置 ・利用促進を図るため、ラリー企画やキャンペーンの実施 ⇒バス印ラリーへの参加（1回）、Osaka Pointキャンペーンの実施（1回）	一括して譲り受けた一般路線バス86系統による路線、運行回数、運賃の水準を維持（水準とは利用実態その他を総合的に考慮したもの） ・接客・接遇サービスの向上を図るため、全バス運転士のサービス介助士資格を推進 ⇒取得率95% ・利便性向上を図るため、スマートフォン端末でバス接近情報を確認できるＱＲコードを停留所に設置 ⇒全停留所990か所に設置 ・利用促進を図るため、ラリー企画やキャンペーンの実施 ⇒バス印ラリーへの参加（1回）、Osaka Pointキャンペーンの実施（1回）

指標Ⅰ　一般路線バスの86系統による路線の水準維持

	R2	R3	R4	R5	R6	R7【最終】
目標値	－	86	－	－	－	－
実績値	86	86				

当該年度の目標達成状況　a(i)
《達成状況》
a：目標達成：　(ⅰ)取組は予定どおり実施　(ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
b：目標未達成：(ⅰ)取組は予定どおり実施　(ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった

指標Ⅱ　一般路線バスの運行回数の水準維持（2021年４月1日時点の1日あたりの運行便数の維持）

	R2	R3	R4	R5	R6	R7【最終】
目標値	－	平日:5,880便 土曜:5,139便 休日:4,806便	－	－	－	－
実績値	平日:6,121便 土曜:5,364便 休日:4,988便	平日:5,880便 土曜:5,139便 休日:4,806便				

当該年度の目標達成状況　a(i)
《達成状況》
a：目標達成：　(ⅰ)取組は予定どおり実施　(ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
b：目標未達成：(ⅰ)取組は予定どおり実施　(ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった

指標Ⅲ　一般路線バスの運賃の水準維持

	R2	R3	R4	R5	R6	R7【最終】
目標値	－	大人:210円 小児:110円	－	－	－	－
実績値	大人:210円 小児:110円	大人:210円 小児:110円				

当該年度の目標達成状況　a(i)
《達成状況》
a：目標達成：　(ⅰ)取組は予定どおり実施　(ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった
b：目標未達成：(ⅰ)取組は予定どおり実施　(ⅱ)取組を予定どおり実施しなかった

外部団体の自己評価

指標の達成状況	A	A：指標全部達成 B：指標全部未達成 C：指標一部未達成	中期計画に対する進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」

当該事業年度の達成状況について

お客さまに満足いただけるよう接客・接遇サービス、利便性向上を図るための新たなバス接近情報サービス、利用促進を図るためのラリー企画やキャンペーンに取り組んだことで、一般路線バス86系統の路線、運行回数、運賃の水準を維持することができた。

最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について

今後の乗車人員の回復が不透明な状況にある中、民営化プランに記載のとおり、乗合バス事業の路線・サービスを持続的・安定的に提供することで、2025年度までの一般路線バス86系統による路線、運行回数、運賃の水準維持に努めてまいりたい。

市の審査						
	中期計画に対する進捗状況 【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	「様式1：中期目標(3)」 に対する取組の有効性	A	A：有効であり、継続して推進 B：有効でないため、取組を見直す
	「外郭団体の自己評価」に対する審査結果					
	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、非常に厳しい経営状況が続き、一般路線バスについては、令和３年３月に「事業性のある路線」を中心に需給調整を実施する一方、乗車人員の大幅な回復が見込めないなか、市民・利用者に必要なサービス水準を維持し、利便性向上等の取組も進め、市内交通を支える事業者としての役割を果たしている。					
	「中期目標」達成の視点からみた審査結果					
	新型コロナウイルス感染症拡大の影響による乗車人員の減少が続き、親会社であるOsaka Metro以上に厳しい経営環境にあると認識している。今後も引き続き、安全・安心はもとより、快適で便利なバスサービスを提供できるよう取り組まれたい。					